

羽田福山市長のご出席・小川市議会議長・吉岡市老連会長・池口元老大学長をはじめとする多くのご来賓・講師の先生方のご臨席を賜り、熱心な老大学生の皆さんのご出席をいただいで、福山市老人大学第四四期修了式が盛大に開催できますことをありがたく嬉しく思います。

老人大学の今年度は、創立五〇周年に向けた新たな一〇年の初年度でありました。

私は、昨年四月の入学式式辞で、福山市も高齢化率が二五%を超えたことを重く受けとめ、次の三点を大学運営の柱とする旨を申し述べました。

老人大学生は、

第一 日々「健やかに・穏(おだ)やかに・和(なご)やかに」
過ごすことで、人生の先達としての模範を示していただく。

第二 「自分達で出来ることは自分達でする」ことで自発性と
自助の精神を大切にする。

第三 「若い者にはまだ負けない元気な老大学生は、大いにボランティア活動に取り組む」ことで、相互扶助を進める。
この三点です。

第一の一つ目「健やかに」は、昨年八月、老大会場に集団健康診査を開設、多くの方に受診していただきました。先日も「老大会健康診査で病気が早く見つかり、上手く治療してもらったお蔭で、年内に老大会に戻って来る事が出来ました」と感謝の言葉を頂戴しました。

第一の二つ目「穏(おだ)やかに」は、下校時の自動車の誘導を行うことで、込み合う駐車場から一〇分余りで出庫していただき、声を荒げる人がなくなるよう努めました。

第一の三つ目「和(なご)やかに」は、学生会活動はもとより、学級活動やクラブ活動が盛んに行われ、楽しく和やかな学生生活になっていると受け止めています。

第二の「自分達で出来ることは自分達でする」は、学生会役員・学級委員長をはじめとする学級役員・掃除当番・駐車場係などの役割をしっかりと果たしていただきました。

そして、いつも校舎内外の掃除を行ってくださる女子学生がおられます。また、先日、駐車場係の男子学生が、「来年度の始業日には、まだ、新しい駐車場係が決まっていないのだから、私が、自動車誘導に出向いてきますよ」と申し出てくださいました。

第三のボランティア活動は、ボランティア入門講座の修了生を中心とするクラブ活動が定着してきました。更にバラづくり講座生の中から、各地域の「ふれあいプラザ」のばら花壇を世話してくださる方が生まれてきています。

この三点を柱とする大学運営について、老大学生の皆さんの理解と取り組みが深まっていることを嬉しく思います。

同じく昨年四月の入学式式辞で述べた「福山市の高齢者は増えているのに、この五年間で老人大学生が二〇〇名少なくなっている」ことを喫緊の重要課題と受け止め、取り組み案を検討してきました。

その案は、

一 来年度の本講座に英会話・カラオケ・茶道抹茶の三教科を新設するなどして講座内容の魅力アップを図る。

二 老大学生の皆さんが感じている老生の魅力を、まだ来られていない友達に伝えて入学を勧めていただく。というものです。お陰様で、先月のオープンスクール来校者・入学手続きへの問い合わせ・入学願書の配布数が昨年と比べて格段に増えました。来月二日・三日・四日の新規学生受付に多くの方がお越し下さることを期待しています。

また、三月二七日と三〇日に先着順で受け付けます二教科目の受講についても例年を大幅に上回る希望を伺っています。そ

の応募対象となる教科と募集人数は、事務室掲示板とホームページで、予定より少しでも早くお知らせできるよう努めます。

新設の英会話は、現時点で定員四〇名に対し六〇名の出願があり、新規入学を目指す方からの問い合わせも数多く寄せられています。

英会話を学びたいとの多くの要望に可能な限り応えるため、入学願書に示した「水曜日の午前の普通科」に加えて火曜日の午後ではありますが、同じ講師による普通科をもう一クラス追加開設することといたしました。英会話に出願済みの方の中で、火曜日に移動できる方は、お申し出ください。

今年もこの一・二月に教育実習にやってきた四四名の看護専門学校生が、次のような老大学生の声と自らの感想をレポートに綴ってくれました。

○ 「定年退職して、家でボーとしていたら、息子に老人を勧められてね。・・・色んな人と話が出来ると、今は新しい友達も出来て、楽しいよ」と笑顔で話された。

○ 皆さんがとても元気で、九〇歳だと言われても全く信じられない程、生き生きとされていた。病院実習では、高齢者は廃用症候群になるものだと思っていたが、今日の老人大実習でイメージが一変した。

人は、生き甲斐・好きなこと・目的が見つかるこんなにも元氣になれるのだと分かった。

○ 「私は、去年は肺がんで入院しとったけど、今年は、教科の勉強の他に卓球もし、自転車通学にしたら、膝の痛みが無くなった。手術はしんどかったけど、今は、老大に戻って来ることが出来て嬉しいよ」と話された。

老人大学で生き甲斐を見出している人にとって、「老大に戻りたい・通い続けたい」との思いが、治療への意欲になっ

ているのだと感じた。病院での看護も、日常生活の援助や疾病からの回復だけでなく、患者さんの趣味や他者との交流にも目を向けていくことが大切だと学んだ。

○ 授業の中で、学生同士がエピソードを発表し合ったり、家族を亡くして気落ちしている人を心配したり、提出物の点検をしたり、普通の学校のクラスと同じ光景だった。

近年、高齢者の一人暮らし・孤独死が増えているが、老人大学で友達が出来れば、日々の生活の安心感も得られるだろうと思えた。

などなど、看護学生達は、高齢者の健康と福祉に果たす老人大学の役割の大切さを見事に学び取っていました。

新年度の老人大学は、

一 講師の先生方に一層のご尽力をいただいて、講座内容の充実を図り、高齢者の生涯学習の場としての魅力を高める。

二 保健所などの協力を得て、健康診査・健康講座の開設など、老大学生の健やかな生活のための支援策を強める。

三 込み合う駐車場から整然と下校していただく取り組みを通して、交通マナーの向上を目指す。

四 若い者にはまだ負けない元気な老大学生が、地域を始めとする様々な分野のボランティア活動に参加できるよう支援する。

この四点を新年度の大学運営の柱とし、四七万福山市民の期待に応えていく決意を申し述べ、今年度を修了するにあたっての式辞といたします。

二〇一五年（平成二十七年）二月二五日

福山市老人大学 学長 高橋 和男